

アキシャルックス®点滴静注と
レーザ光照射による
治療を受ける患者さんへ

インフォームドコンセント用資材

監修

花井 信広 先生

愛知県がんセンター 副院長 兼 頭頸部外科部長



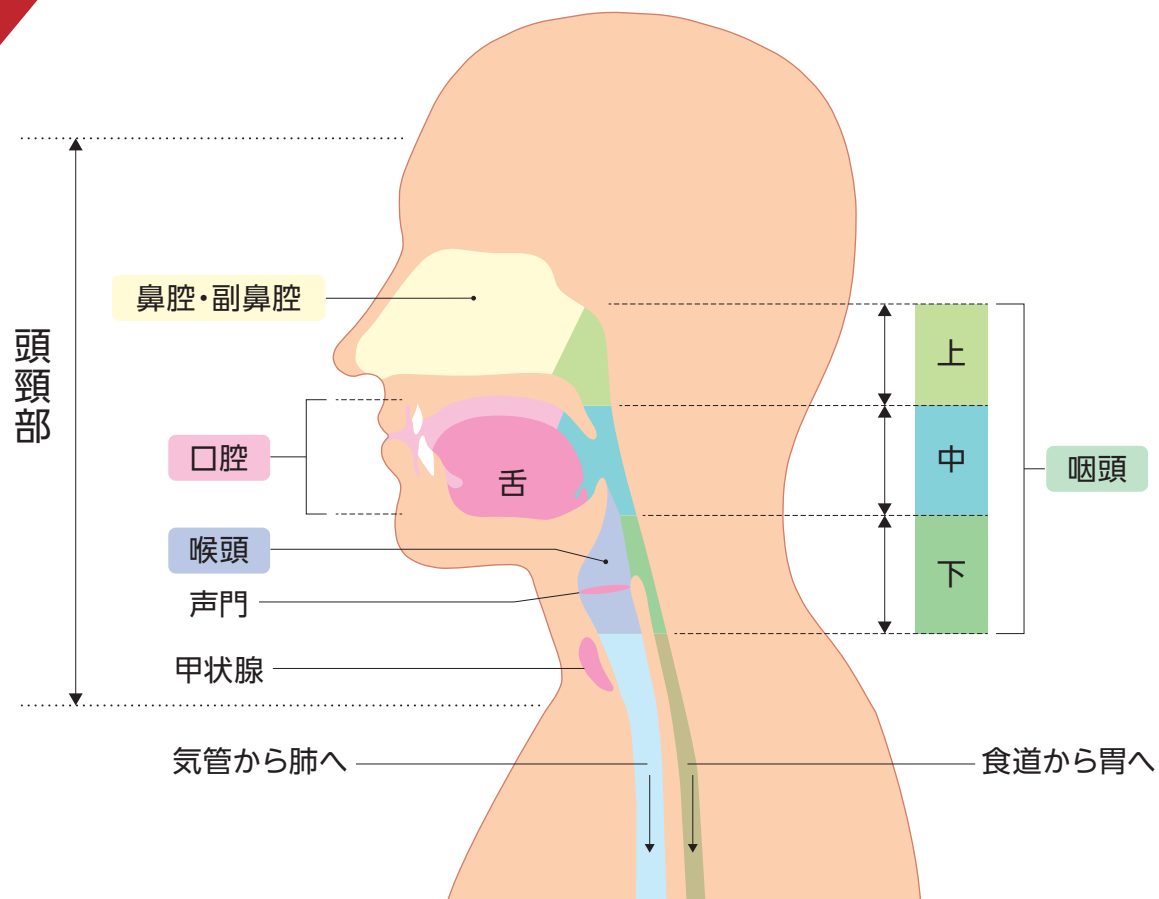
目次

| | |
|------------------------------------|----|
| あなたのがんについて | 3 |
| 主な頭頸部 <small>とうけいぶ</small> がんについて① | 4 |
| 主な頭頸部がんについて② | 5 |
| 頭頸部がんの主な治療法 | 6 |
| アキラルックス®点滴静注とレーザー光照射による治療のしくみ | 7 |
| 本治療の流れ | 8 |
| 本治療を受ける前に | 9 |
| 本治療(2日間)の内容と注意点① | 10 |
| 本治療(2日間)の内容と注意点② | 11 |
| 本治療後の注意点① | 12 |
| 本治療後の注意点②(2週目以降) | 13 |
| 本治療の主な副作用① | 14 |
| 本治療の主な副作用② | 15 |
| 本治療の主な副作用③ | 16 |
| 本治療の主な副作用④ | 17 |

あなたのがんについて

目次へ

とうけいぶ 頭頸部の主な部位



顔面から首（鎖骨から上）までの範囲の、脳、眼球を除く部位を頭頸部^{とうけいぶ}といいます。頭頸部のそれぞれにできるがんが、頭頸部がんです。

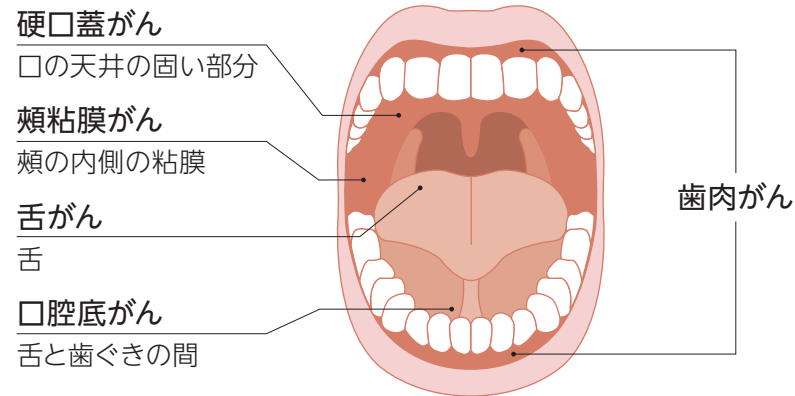
頭頸部には呼吸や食事など人が生きるために必要な機能だけでなく、発声や味覚、聴覚など社会生活を送るために重要な機能をつかさどる器官が集まっているため、頭頸部がんではこれらのはたらきに影響することがあります。

主な頭頸部がんについて ①

目次へ

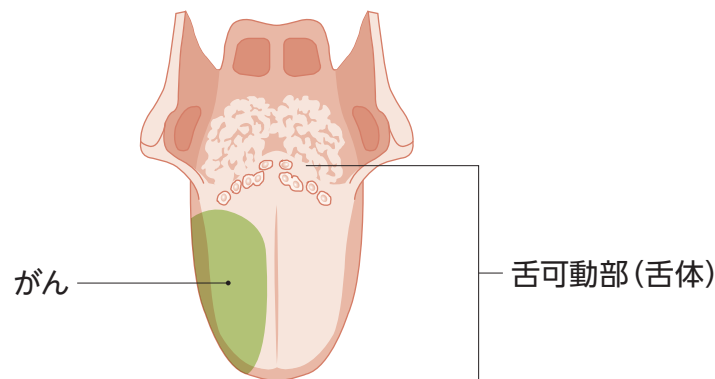
こうくう 口腔がん

口腔(口の中)にできるがんには、舌がん、^{ぜつ}口腔底がん、^{こうくうてい}歯肉がん、^{しにく}頬粘膜がん、^{きょうねんまく}硬口蓋がんなどがあります。



ぜつ 舌がん

口腔がんの中で最も多いがんが舌がんです。舌の辺縁に多く発生します。

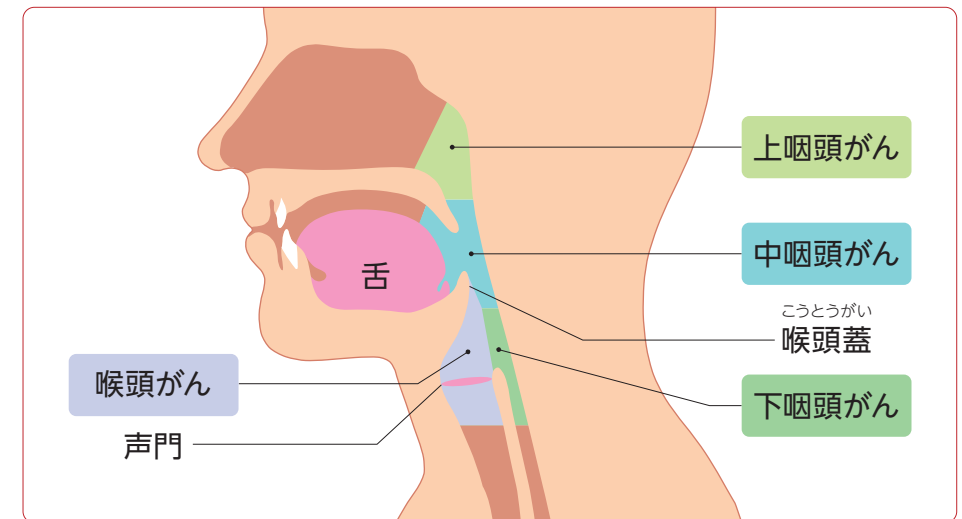


いんとう 咽頭がん

鼻の奥から食道までの、食べ物や空気の通り道の部分を咽頭と^{じょういんとう}いい、^{ちゅういんとう}上咽頭、^{かいんとう}中咽頭、下咽頭の3つに分けられます。上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんはそれぞれ、のどの上に位置する鼻の突き当たりの部分、口を大きく開けたときに見える部分、のどぼとけの^{こうとう}後ろ付近にあたる食道や喉頭につながる部分にできるがんです。

こうとう 喉頭がん

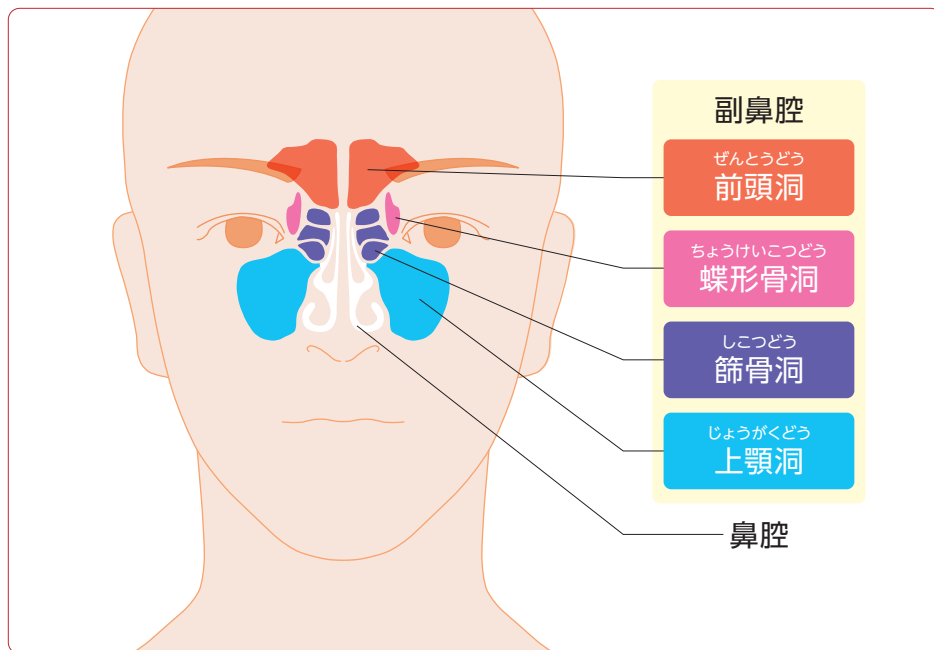
喉頭はのどぼとけの後ろあたりにあり、^{こうとうがい}喉頭蓋と声門(声帯)を含みます。がんができる場所によって、声門がん、声門より上にできる声門上部がん、声門より下にできる声門下部がんの3つに分けられます。



主な頭頸部がんについて ②

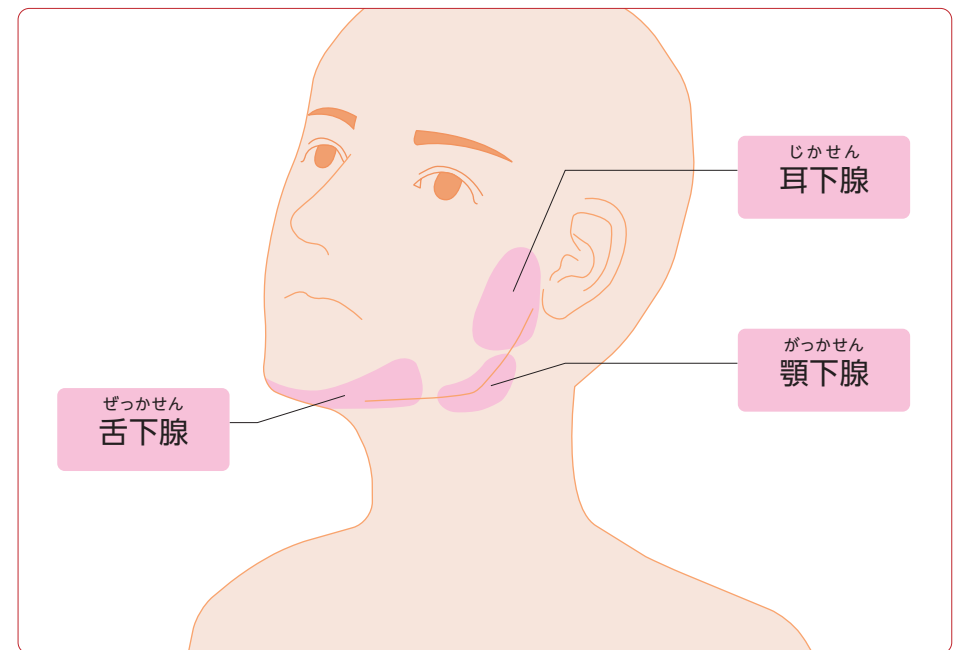
じょうがくどう 上顎洞がん

鼻の内部の周辺、頬の骨の裏側には前頭洞、蝶形骨洞、篩骨洞、上顎洞という空洞(副鼻腔)があり、一番大きな空洞である上顎洞に発生するがんを上顎洞がんと呼びます。



だえきせん 唾液腺がん

唾液を作る唾液腺は大唾液腺と小唾液腺の2つに分けられ、大唾液腺は耳下腺、顎下腺、舌下腺の3つがあります。唾液腺がんの多くは耳下腺がんと顎下腺がんです。



頭頸部がんの主な治療法

目次へ
◀◀

頭頸部がんの治療法は主に外科手術、放射線治療、薬物治療の3つがあります。

外科手術

- がんを治すことをめざして、原因そのものを取り除こうとする治療法です。
- がんを切除することによって発声や食べ物を嚙んだり飲み込んだりする機能に影響することもあります。



放射線治療

- がんを縮小させたり消失させたりするためにがん放射線を当てて行う治療法です。
- 治療後に容貌が変化したり、発声や食べ物を嚙んだり飲み込んだりする機能が低下したりすることが少ない点の特徴です。
- 抗がん剤を組み合わせられて行われることが多いです。



薬物治療

- 薬剤による治療には主に化学療法、分子標的薬による治療、がん免疫療法があります。
- 放射線治療に加えて治療効果を高めたり(化学放射線療法)、外科手術や放射線治療の前や後に補助的に行われることもあります。
- 手術ができない場合や転移などがある場合などにも行われます。

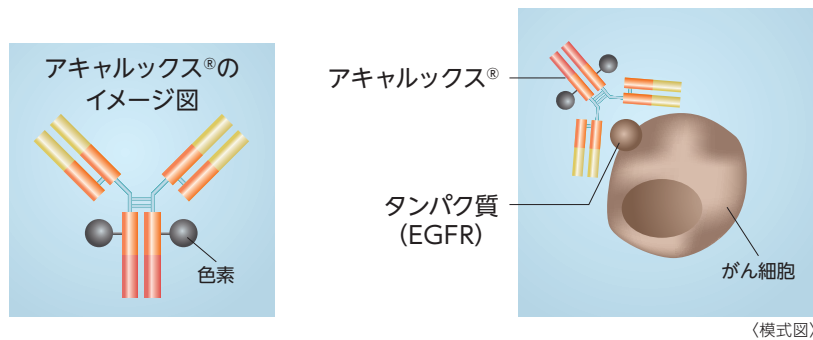


アキシャルックス®点滴静注とレーザー光照射による治療のしくみ

目次へ

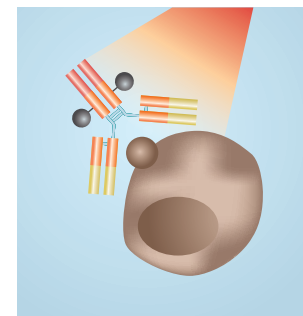
EGFRにアキシャルックス®が結合

頭頸部のがん細胞の表面には、細胞の増殖を促す物質を認識して、増殖のシグナルを送るタンパク質 (epidermal growth factor receptor: EGFR) が多くあらわれています。アキシャルックス®は、このEGFRに結合します。



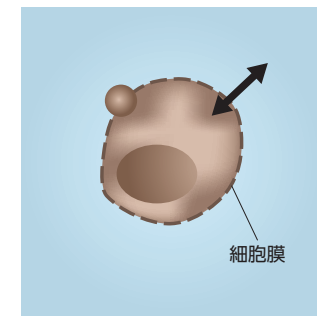
レーザー光*により色素が反応

アキシャルックス®が結合したがん細胞にレーザー光を当てることにより、アキシャルックス®に含まれる色素が反応します。



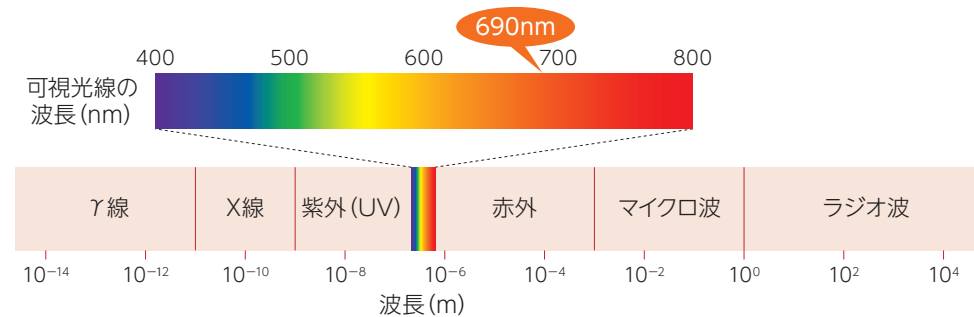
がん細胞が死滅

がん細胞の細胞膜が破壊され、がん細胞が死滅することで抗がん作用を引き起こします。



※レーザー光について

アキシャルックス®点滴静注と一緒に使用されるレーザー光は波長が690nmで、人間の眼で見ることができ^{ナノメートル}る光の範囲 (可視光線: 380~780nm) 内にあります。レントゲンで使われるX線や放射線治療で使われるγ線とは異なります (図参照)。また、熱エネルギーを用いて腫瘍を焼き切るレーザー療法で使用されるものとも異なるものです。

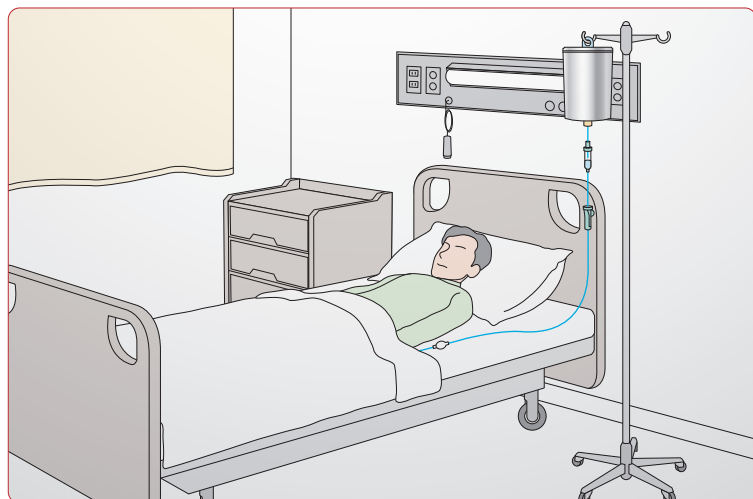


本治療の流れ

本治療は、①薬剤であるアキシャルクス®を点滴で投与する ②レーザー光を当てるという二段階で各1日ずつ2日間行われます。

第一段階(1日目) アキシャルクス®投与

アキシャルクス®を2時間以上かけて点滴で投与して、がん細胞の表面に多くあられるタンパク質に結合させます。

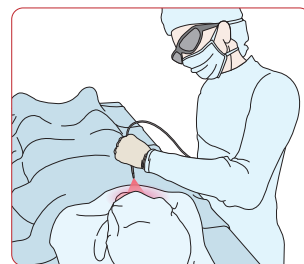


第二段階(2日目) レーザ光照射

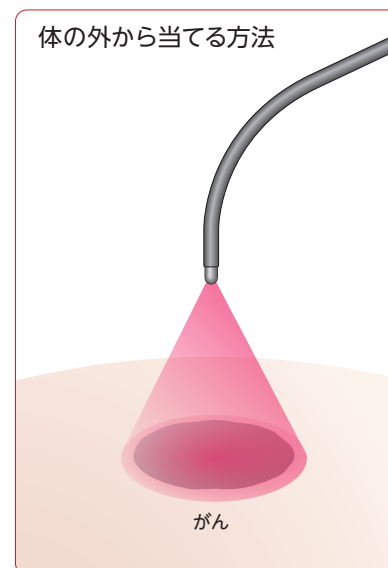
20～28時間後にレーザー光を当ててアキシャルクス®を反応させてがん細胞を死滅させます。

▶ レーザ光は2種類の方法で当てられます。一つはがんの表面の部分に、ディフューザーで体の外から当てる方法です。もう一つは皮下組織(体の中)にあるがん針を刺し、そこにディフューザーを挿入して体の中から当てる方法です。

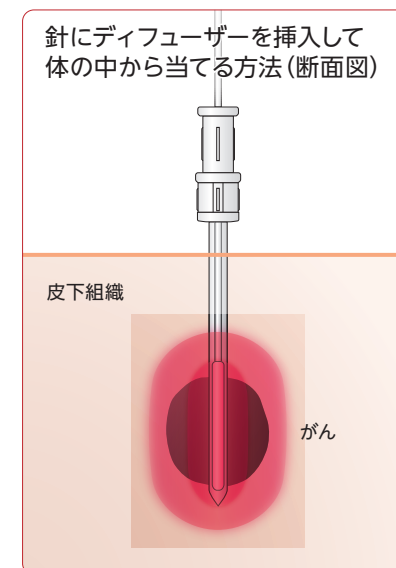
がんの部位や大きさによって、どちらか片方の方法で治療する場合と、両方の方法で行う場合があります。



体の外から当てる方法



針にディフューザーを挿入して体の中から当てる方法(断面図)



本治療を受ける前に

目次へ

本治療の対象となる方

- 外科手術が適さない方

※ 化学放射線療法等の標準的な治療が可能な場合にはこれらの治療を優先すること。



効能又は効果：切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌

本治療の対象とならない方

- アキラルックス®に含まれる成分に対してアレルギー反応があらわれたことがある方



- がんが頸動脈(首の左右にある太い血管)まで広がっている方

本治療の際に注意が必要な方

- 妊娠する可能性がある女性



治療中と治療後の一定期間、避妊が必要になります。

- 現在授乳中の女性



授乳をしないことがのぞましいです。

本治療(2日間)の内容と注意点 ①

目次へ
◀◀

1日目 アキシャルックス®投与



治療について

- アキシャルックス®は2時間以上かけて点滴で投与されます。
- アキシャルックス®を投与する部屋では、カーテンやブラインドを閉めて直射日光が入らないようにします。投与中は屋外や廊下からも自然光が入らないようにします。
- アキシャルックス®の投与によりインフュージョンリアクションという副作用が出る可能性があり、この副作用を予防するための薬がアキシャルックス®投与直前に投与されます。

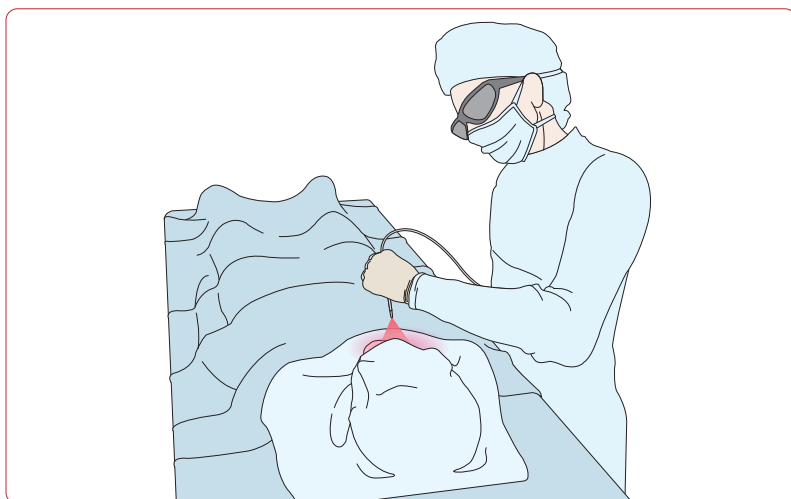
患者さんに気を付けていただきたいこと

- 医療施設内の明るいところや施設外へ行く際には、帽子、スカーフ類、サングラス、長袖、長ズボン、手袋、靴下などを着用し、肌が露出しないようにしてください。
- アキシャルックス®投与後に、患者さんに気を付けていただきたいことを12ページにまとめてあります。

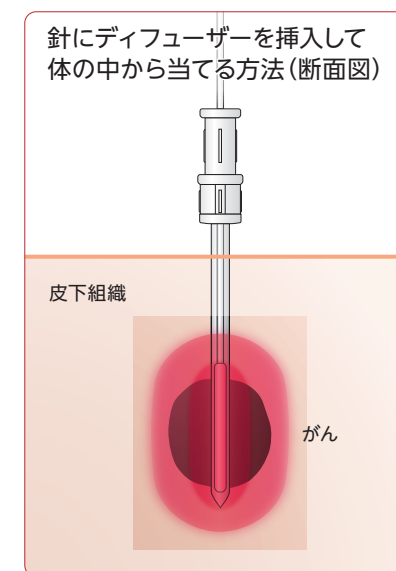
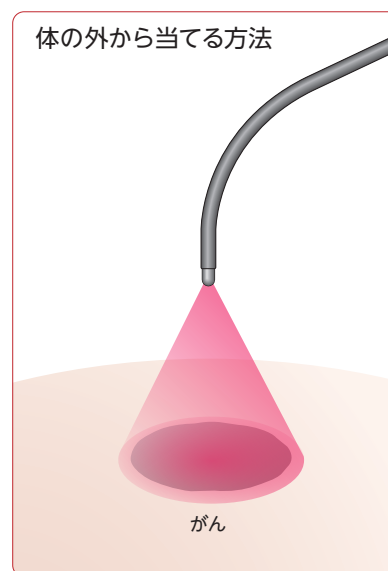
2日目 レーザ光照射

治療について

- アキラルックス®を投与してから20～28時間後に、全身麻酔を行い、手術室等*でレーザー光を当てます。
※ 施設によっては手術室以外で治療することもあります。
- 場合によっては気管切開(肺に空気を送ったり、痰を吸引しやすくするために気管に孔を開けること)が必要になることがあります。



- レーザ光はディフューザーと呼ばれる光ファイバーから放出されます。
レーザー光の照射には、がんの表面の部分にディフューザーで体の外から当てる方法と、皮下組織(体の中)にあるがんを針を刺し、そこにディフューザーを挿入して体の中から当てる方法の2種類があります。
がんの部位や大きさによって、どちらか片方の方法で治療する場合と、両方の方法で行う場合があります。



本治療後の注意点 ①

目次へ

本治療後は光線過敏症という副作用があらわれやすいため、光に当たらないように注意する必要があります。

光線過敏症 アキシャルックス®投与後

患者さんに気を付けていただきたいこと

- 皮膚や眼に強い光や直射日光が当たらないようにしてください。
- 外出はなるべく避け、基本的に室内で過ごすようにしてください。
その際は、室内照明の照度は可能な限り小さくし、読書灯などの強い光の出るものは使用しないように注意してください。
- 院内の移動や外出が必要な場合は、帽子、スカーフ類、サングラス、長袖、長ズボン、手袋、靴下などを着用し、肌が露出しないようにしてください。

※ 紫外線の日焼け止めを肌に塗っても効果はありませんので、衣服で肌をカバーしてください。



衣類等の着用例

- 頭、首、鼻、耳を覆うことのできる広いつばの帽子
- 頭や首を覆うスカーフ
- 目と目の周囲の皮膚を隠すサングラス
- 上半身と腕を覆う長袖の衣類
- 下半身と脚を覆う長ズボン（スカートとタイツ）
- 手袋
- 靴下
- 足の甲を覆う靴



※ 衣類は、ごく薄手の生地や目の粗い生地では強い光からの保護にならないため、暗い色で目の詰まった素材がのぞましいです。

本治療後の注意点②（2週目以降）

目次へ
◀◀

本治療後は皮膚や眼に強い光が当たらないように注意する必要があります。

2週目以降

患者さんに気を付けていただきたいこと

- アキラルックス®投与後4週間は直射日光が当たらないようにしてください。
4週間経過した後も、当面は日光浴など強い光に当たるのを避け、徐々に通常の光に慣れるようにしてください。
- 明るい光に当たりすぎ、痛みや灼熱感があらわれたら、すぐに光から離れてください。肌が赤くなったり腫れたりした場合は、主治医、看護師、薬剤師に連絡してください。
- 7日目以降に直射日光に当たる可能性がある（あるいは希望する）場合は、照射テストをした上で可能になることがありますので、主治医にご相談ください。



★ 本治療後「2週目以降」も、光に対してはそれまでと同様に気を付けてください。（12ページをご参照ください）

本治療の主な副作用 ①

目次へ

本治療にはレーザー光に反応する薬剤が使用されるため、薬剤を投与した後の一定期間は強い光に当たらないようにする必要があります。事前に対策を講じることで副作用を予防できることもあります。

副作用の症状はあらわれ方に個人差がありますが、あらかじめ副作用の種類や症状を正しく理解し、心の準備ができれば不安を軽減することもできます。

本治療で注意が必要となる主な副作用

出血

舌の腫脹(腫れ)・
のどの浮腫(むくみ)



インフュージョン
リアクション



ろうこう
瘻孔、皮膚・粘膜の
かいよう えし
潰瘍や壊死

光線過敏症



皮膚障害



痛み



本治療の主な副作用②

目次へ

出血

治療した部分やその周りにある血管から出血する場合があります。命に関わることもあるため、注意が必要です。

舌の腫脹(腫れ)・のどの浮腫(むくみ)

治療した部分やその周囲の針を刺した部分が腫れたり、むくんだりする可能性があります。
舌の腫れやのどのむくみが起こると、食べ物や飲み物ののみこみにくくなったり、息がしづらくなったりします。



インフュージョンリアクション

アキラルックス®を点滴投与した後24時間以内に過敏症やアレルギーのような症状があらわれることがあります。

- 寒気
- 発熱
- めまい
- 気管支けいれん
- じんましん
- 低血圧
- 意識の消失
- ショック
- 胸痛(急に胸を強く押さえつけられた感じ、息苦しさ)

など

これらの症状があらわれた場合には、ただちに主治医、看護師、薬剤師に連絡してください。



本治療の主な副作用 ③

目次へ

瘻孔、皮膚・粘膜の潰瘍や壊死

レーザー光をあてたところに、瘻孔（組織に穴があいた状態、組織が欠損した状態、骨が露出した状態）、皮膚や粘膜の潰瘍（穴ができた状態）、皮膚や粘膜の壊死（黒みがかかった茶色に変化してはがれおちた状態、黄色～黒色に変色した状態）などがあらわれる場合があります。瘻孔や潰瘍では症状がある部分に痛みを伴い、壊死では症状がある部分の感覚がなくなります。

光線過敏症

強い光が皮膚や眼に当たると、皮膚が赤くなったり、皮膚や眼に痛みが起こったりする可能性があります。



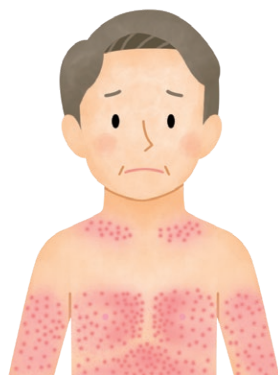
光線過敏症を防ぐ方法を12ページにまとめてあります。

本治療の主な副作用 ④

目次へ

皮膚障害

アキラルックス®が結合するタンパク質 (EGFR) は正常な皮膚細胞にも存在するため、アキラルックス®が反応して肌が発赤したり、皮疹(ぶつぶつ)ができたりする可能性があります。



痛み

本治療では、レーザ光を当てるために針を刺したり、レーザ光によりがん細胞が死滅したりすることから、治療した部分に痛みが生じる可能性があります。



Rakuten Medical

ガン克服。生きる。
CONQUERING Cancer.

AKH0008AD0005
2021年1月作成
2023年10月改訂